

地域と守る。

ひのわとの景観。ひのわとの資源。



①

- ① 今年は津軽海峡側の海岸線を清掃。
- ② 越善村長もゴミ袋を片手に漂着物を撤去。
- ③ 参加者は“住民”として一緒に汗を流しました。
- ④ 冷蔵庫などの大型の漂着物もありました。



②



④



③



外国からの漂流ゴミもたくさんありました

こういった漂流ゴミは、やがて海岸に打ち上げられ、観光地としての景観を損なうだけでなく、機資源・海洋資源に対する環境汚染や漁具の破損被害なども深刻です。

峡と太平洋に面し、暖流と寒流が混じり合う潮境になっています。そのため、絶好の漁場になっている反面、海流に乗った漂流ゴミも多く寄りついてしまいます。

8月8日（土）、昨年10月に続き、尻屋崎海岸のボランティア清掃が行われました。本州の最北東端に位置する尻屋崎は、国定公園にも指定され、寒立馬にも出会える有数の観光スポット。津軽海峡と太平洋に面し、暖流と寒流が混じり合う潮境になっています。そのため、絶好の漁場になっている反面、海流に乗った漂流ゴミも多く寄りついてしまいます。

これまでも尻屋崎の清掃は実施しています。尻屋漁協関係者の皆さんも定期的に清掃してきました。

平成26年度からの清掃事業では、大型漂着物の処理は事業者へ委託する一方、手で拾える部分はボランティアを募って実施しています。こ

れは、地域の観光資源・機資源は地域で守るという観点から、住民活動としての普及啓発も期待してのものです。

今回は、早朝にも関わらず、村内各地区の住民・漁協関係者、村内の立地企業や商工会・観光関係者ら280名が参加しました。

この日、隣の岩屋地区や尻労地区では大粒の雨も降りましたが、不思議と尻屋崎だけは雨粒ひとつ降ることもなく、時おり日も差すほどの陽気。小学生から80歳以上の方までが一緒にになって汗を流しました。

地域の住民活動として